

平成24年度事業報告（各委員会）

【事業に関する事項】 …… 詳細は機関誌『連珠世界』参照

平成24年5月、中国北京市で開催された国別対抗の第9回チーム連珠世界選手権戦で、日本選手団（岡部 寛主将・八段、大角友希名人・九段、中村 茂九段、久富隆洋七段、中山智晴四段、田村一誠七段（大連市在住一般参加者）：選手団長三森政男九段、事務局久保出美五段）が悲願の初優勝を果たしたことを賞賛したい。一般参加者も加わったことで【公益事業目的】を果たし、【国際親善】に貢献したことを自負したい。3年前東京で開催された第8回チーム戦では最強布陣で臨んだはずであったが優勝は中国チームで、日本Aチームは残念にも3位に終わった。ただ今回の布陣は自国開催経験で日本の連珠家に大きな関心が集まった成果とも言えよう。

第50期全日本連珠名人戦は、挑戦者中村 茂九段が名人大角友希九段を破り11年ぶりに名人位に復活しました。会員の多くが仕事・学業と連珠の両立に腐心する中で、中村新名人や大角九段、A級に進出した各選手、またそれを支えた各支局長・支部長他、各地の連珠会運営者、珠友、選手にも称賛を贈りたい。

全日本連珠名人戦に次ぐ大型全国棋戦「第8期全日本連珠選手権戦＝愛称：珠王戦」は大角友希九段（前名人）が制覇し、平成25年8月初旬にエストニア共和国首都タリン市で行われる「第13回世界連珠選手権戦」AT代表選手に決まった。大型棋戦の「関東連珠帝王戦」、「関西選手権戦」をはじめ、各地域で公式戦が行なわれているが、参加者数で地域格差が広がっている傾向がさらに顕著になっており、今後の検討課題である。

インターネットは普及活動の施策上非常に有用であり、名人位挑戦手合いのライブ中継やA級リーグ戦局譜公開などを取り上げ好評を博している。各地の連珠会・公式戦にネット出身者が増加しているが、これらの珠友が会員になることは現時点では昨年度同様少なく、これも今後の検討課題である。メディアで継続して取り上げられることが連珠普及に最も効果的と考えられる中、東日本大震災と福島原発問題で活動中断状態が続いていたプレスリリースの定期発信など、広報委員長小林理事のご活躍に期待したい。

こうした状況下でも、各地域で連珠・公認指導員を中心に、公民館や老人施設や児童館、小学校・中学校などで連珠の普及という公益目的事業活動を積極的に継続して展開することをさらに期待したい。

これらの複合した事業活動を展開したが、意図通りの会員数の増加はなく、会員増は会員の努力次第という状況が続いている。

以上の事項や各種の事業活動については、機関誌『連珠世界』に毎号いろいろな角度から詳報されている。

【総会に関する事項】

（1）定時会員総会

- ・平成24年5月26日（土）15:13～17:53 於：東京都江東区総合区民センター7階和室
- ・出席会員数104名（うち委任状89名、会員総数132名、出席率79%）
- ・議長には三森政男氏が選ばれ、書記に飯尾義弘氏と久保出美氏を指名後、議事録作成者に久保出美氏を指名した。定款第30条に従い議事録署名人には議長本人の他、飯尾氏・久保氏の2名を推薦し、満場一致で承認された。
- ・議案 第1号議案 平成23年度事業報告並びに収支決算書（財務諸表含む）承認の件 賛成103票
- 第2号議案 平成24年度事業計画並びに収支予算案承認の件 賛成102票
- 第3号議案 役員など追認の件 賛成 99票
- 第4号議案 日本連珠社【基本財産】一部取り崩しの件 賛成 98票

*各議案とも承認された。第1号議案中の平成23年度収支報告では、議長から指名された久保（財務委員長）が説明し、その後で、亀井監事が平成23年度実施事業並びに収支決算書報告など適正である旨説明し監査報告書全文を読み上げた。

*第3号議案に関しては役員改選の該当年度ではないが、現理事14名・監事3名が全員追認された。

【理事会に関する事項】

（1）第1回理事会 平成24年5月26日（土）13:12～15:00 於：東京都江東区総合区民センター7階和室

- ・出席役員 理事14名（うち委任状4名、理事総数14名）、監事1名（亀井）
- ・その他の同席者 正会員1名
- ・議長：三森政男理事長、書記：飯尾理事・久保理事、議事録作成者：久保理事
- ・議事録署名人：議長三森政男、副理事長飯尾義弘、理事久保出美（出席理事全員が了承）

特例民法法人（社団）日本連珠社

- 第1号議案 「平成24年度定時会員総会議案書」審議の件 賛成13票
第2号議案 特別表彰制度、表彰者審議の件(表彰者案の審議) ⇒三森政男氏に決定 参席理事全員9票
第3号議案 役員、各委員会委員長など、および追加候補者など選任審議の件(案についての審議)
*第3号議案で、立候補者も推薦案もなく、議案通りと決まった。

- (2) 第2回理事会 平成24年5月26日(土)18:08~19:00 於：東京都江東区総合区民センター7階和室
・出席役員 理事14名(うち委任状4名、理事総数14名)、監事1名(亀井)
・その他の出席者 正会員1名
第1号議案 役員内特別職(理事長・副理事長・事務局長)の確認の件…久保総務委員長司会進行
*出席理事満場一致で、理事長に三森政男氏、副理事長に、飯尾義弘氏・小俣光夫氏・田所豊斉氏(定款第16条2項理事長代行順位順)、事務局長に久保出美氏が選出された。
・議長：三森政男理事長、書記：飯尾理事・久保理事、議事録作成者：久保理事
・議事録署名人：議長三森政男、副理事長飯尾義弘、理事久保出美(出席理事全員が了承)
第2号議案 普及に関する件
*出席理事満場一致で、議決承認された。⇒機関誌特別送付先を現行通り継続
第3号議案 日本連珠社<名人戦総括規定>一部改訂審議の件
*出席理事満場一致で、議案文通り議決承認された。⇒三上杯低段者の部優勝者などに名人戦一次予選出場権付与
第4号議案 連珠公認指導員(=普及推進委員)、追加認定の件
*出席理事満場一致で、議案通り議決承認された。⇒真野芳久五段(愛知県豊田市)を追加
第5号議案 正会員入会認可の件
*出席理事満場一致で、福井暢宏氏・長副紘樹氏の正会員資格が議決承認された。
- (3) 第3回理事会(書面理事会※) 平成25年2月25日(月)~同3月4日(月)
※メール・FAX・直接対話などによる意見交換と、【回答書】による議決表明、【回答書】締切3月8日
・出席理事 理事全員(理事総数14名)
・議長：三森政男理事長、書記・議事録作成者：久保出美理事
・議事録署名人：議長三森政男、副理事長飯尾義弘、理事久保出美(理事全員が了承)
第1号議案 平成25年度事業計画承認の件
*出席理事満場一致で、議案文通り議決承認された。
第2号議案 平成25年度収支予算(案)承認の件
*出席理事満場一致で、議案金額通り議決承認された。
第3号議案 理事等の選任に関する件
①役員(理事・監事)の選任・交代など
*賛成多数(11票)で議案通り議決承認された。理事や監事への立候補者や推薦案もなかった。
②各委員会委員長の選任・交代など
*賛成多数(10票)で議案通り議決承認された。委員長や補助役への立候補者や推薦案もなかった。
第4号議案 日本連珠社【印章管理規則(案)】承認の件
*出席理事満場一致で、議案文通り議決承認された。⇒文化庁からの改善指導もあるため、HPへの掲載はしないが、本規則を議決した3月8日から直ちに施行することが併せて理事全員に確認された。
第5号議案 【名人戦総括規定】及び【名人戦参加費など内規】の一部改訂(案)承認の件
①A 【名人戦総括規定】6. 出場資格1)を部分改訂する。
*出席理事満場一致で、議案文通り議決承認された。⇒〔五段以上〕用語解釈の明文化が決まり、第51期名人戦関連棋戦から運用開始することが併せて理事全員に確認された。
①B 【名人戦総括規定】6. 出場資格に 5)項を追加する。
*出席理事満場一致で、議案文通り議決承認された。⇒〔外国選手や国外居住者〕の名人戦参加への門戸開放を明文化した。第51期名人戦関連棋戦から運用開始することが併せて理事全員に確認された。
② 【名人戦参加費など内規】2)を部分改訂し、④項を追加する。
*出席理事満場一致で、議案文通り議決承認された。⇒①Bの改訂に合わせて、〔外国選手や国外居住者〕の名人戦参加費負担を明文化した。第51期名人戦関連棋戦から運用開始することが併せて理事全員に確認された。
第6号議案 日本国内の公式棋戦審判員制度についての検証と規定(案)承認の件
①連珠公認指導員には、日本国内公式棋戦の審判員資格を認定付与する。
*賛成多数(12票)で議案通り議決承認された。⇒今後開催する公式棋戦から運用される。
②審判員資格者は、日本連珠社会員でなければならない。

特例民法法人（社団）日本連珠社

*賛成多数（11票）で議案通り議決承認された。⇒今後開催する公式棋戦から運用される。

③審判員資格者を得ようとする者は、日本連珠社事務局へ文書（様式自由）で申請書を提出し、理事会で過半数の議決を得ること。

*賛成多数（12票）で議決承認された。

第7号議案 《昇入段規定》一部改訂（案）承認の件

①昇入段料金等の見直しを検討した結果、現在の料金体系の中で、公益事業目的【連珠の普及】の趣旨に沿って、中学生以下の者の四段までの免許料を原則無料と定め、その他の料金体系についてはそのまま継続する。

*賛成多数（11票）で議案通り議決承認された。⇒今後開催する公式棋戦から運用される。

②一定条件の下、「昇入段延期願い」を提出することで、昇入段免許料の割引や各種特典を3年間に延長可能とするよう【昇入段規定】に追記する。

*賛成多数（11票）で議案通り議決承認された。⇒今後開催する公式棋戦から運用される。

〔委員会活動報告に関する事項〕

（1）総務委員会

- ・会員総会と理事会に関する資料等の作成、及び発送手配等、総務活動を遅滞なく行なった。
- ・国及び指導官庁からの書類などの提出要請に、遅滞なく適切に回答し、HPにもメディア委員会の協力を得て公開した。
- ・公益法人改革法に準拠する目的で、関連諸規則の改定・整備を促進させた。HPにもメディア委員会の協力を得て公開した。
- ・事務局は久保出美理事のもと、毎月の機関誌の送付者・部数管理及び珠友や一般人からの各種問い合わせに遅滞なく回答し、依頼を受けた普及資料などの発送他、円滑な事務運営に努めた。
- ・大高檀紙特製免状用和紙の入手や免状筆耕者の選定、段位免許状作成・発送等の作業を遅滞なく行なった。
- ・樋渡喜久磨理事が、連珠関連図書などの整理保管を継続して行なった。

（2）普及推進委員会

- ・本会会員がリーダーとなって各地で連珠普及・指導や競技会の開催や指導を行なっている。おもな各地の連珠会はホームページ掲載のとおり。
- ・各地区で連珠公認指導員を中心にして支部や会員が独自に、女流棋士育成目的のペア戦、ミニ大会や対抗戦等を企画実施するなど、積極的に女性や老人福祉施設や少年たちの連珠に対するボランティア活動を継続実施し、公益目的事業を継続推進し、知的文化の向上に寄与貢献した。
- ・会員がボランティアで用具を提供し定期指導を行ない、連珠の普及活動に努めた。
- ・公的施設への継続した機関誌の贈呈や上記ボランティア活動に対する、感謝の手紙などを受け取っている。

（3）財務委員会

- ・理事長指示の下、財務委員（久保・安本）間で協議し、外部専門業者の支援の下、収支決算書及び財務諸表を継続作成した。一方、より緻密な財務管理のため、資産及び負債勘定科目を適宜増やし、予算案も過去のデータ分析からさらに現実的な予算編成を行なった。また収支状況を常に把握し、遅滞なく事業活動を推進させることができた。
- ・文化庁指導普及係の指導を受けて、外部専門業者の支援の下、収支決算書と財務諸表数値の整合に努めた。

（4）広報委員会

一部は翌年度にわたり継続して行われる。なお、広報委員として真野芳久氏（愛知）を追加した。今後小俣委員との3名体制でさらに活発な活動をする予定。

- ①日本連珠社紹介パンフレットの作成（A4・6ページ、1000部作成）
- ②連珠世界バックナンバー等の収集（DVDにて頒布予定）
- ③本年8月の国際頭脳スポーツフェスティバル 2013 in 横浜 の参加準備
- ④碁ワールドへ連珠紹介記事
- ⑤メールマガジン「週刊連珠を楽しもう」の発行協力（通算671号3/27現在）
- ⑥各地公式戦の広報活動
- ⑦連珠雑誌、新聞記事、単行本、定石書などのデータベース化（蔵本嗣治氏協力）
- ⑧日本頭脳スポーツ協会の普及活動への協力事項の打ちあわせ（平成25年年1月より）

（5）国際委員会

- ・第9回チーム連珠世界選手権戦が平成24年4月30日から5月5日まで中国・北京にて開催され、日本

特例民法法人（社団）日本連珠社

から1チーム（6名）が参加し、日本チームは見事初優勝を成し遂げた。

- ・この結果、次回のチーム戦には日本から2チーム出場できることとなった。
- ・チーム世界選手権戦最中に非公式ながらR I Fの総会が開催され、日本から河村理事、岡部理事が参加し、R I F加盟国との意見交換を行い、主に次期の開局規定について討論した。
- ・チーム世界戦の速報をはじめ、連珠ニュースレター、日本連珠社HPなどに連珠情報を発信した。

（6）機関誌編集委員会

- ・機関誌「連珠世界」の定期発行を守り、682号から693号まで遅滞なく発行した。
- ・事務局と連携し、政府公報の掲載、総会・理事会情報、連珠普及活動情報などを掲載し、公益事業目的である機関誌としての役割を果たした。

（7）メディア委員会

- ・活動内容の主なものとしては、公式HP上において、各大会予告・結果報告（速報）、過去の名人戦記録・連珠古書関係のコンテンツ整備・更新等を中心として活動を行なった。
- ・その他の活動としては、各委員会の要請による公式HPへの情報公示・管理や役員用のメーリングリストを設定し直す等の作業を行なった。

（8）珠規審議委員会

- ・チーム世界選手権戦最中に非公式ながらR I Fの総会が開催され、日本から河村理事、岡部理事が参加し、R I F加盟国との意見交換を行い、主に次期の開局規定について討論した。
- ・その後、次期の開局規定について各国主要選手とメールでの意見交換を行なった。
- ・事務局を通じ、連珠界内部での公式戦運営用資料、連珠界外部への普及資料として、ルールブックの配布を呼びかけた。
- ・『連珠／ルールブック』に明文化されていない《題数打ち》などの問題提起事象の問い合わせに、『連珠世界』12月号で詳細に公示回答した。

（9）段位審査委員会

- ・昇入段申請を特例民法法人（社団）日本連珠社【昇入段規定】に基づき、遅滞なく審査認定した。
- ・【昇入段規定】の追加・改訂審議を理事会議案として遅滞なく審議し、改訂事項をメディア委員会の協力でホームページなどで公開した。
- ・平成24年度昇入段者数は下表の通り。（ ）内は推戴昇段者数。各地域での級位者戦優勝者の初段申請が近年顕著に減少している。公式棋戦参加費について日本連珠社会員優遇制度推進を課題としたい。

	九段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段	延計
平成24年度	0	1	2	0	1	3	4	0	5	16 (0)
平成23年度	2	0	0	4	3	2	2	4	4	21 (0)
平成22年度	0	2	0	4	2	2	2	9(1)	7	28 (1)
平成21年度	0	1	2	0	2	4	1	2	7	19 (0)

（10）名人戦運営委員会

- ・第50期名人戦挑戦者決定リーグ戦を、平成24年9月に浜松市の＜ホテル米久＞で実施した。会場や運営の評価は現時点では好評であった。
- ・同名人位挑戦手合い5番勝負を、名人戦運営委員の協力で滞りなく実施した。ライブは好評であった。
- ・挑戦者中村 茂九段が2勝1敗2分で、大角友希名人を破り、全日本連珠名人(第50期)に返り咲いた。
- ・【名人戦総括規定】を、さらに公益事業目的に沿うよう、海外からの参加希望者の対応条項を追記して明文化した。

（11）記録委員会

- ・国内の公式棋戦で委員会に棋譜報告のあった結果をR I Fに報告して、国際レーティングに反映させた。

（12）詰連珠通信戦委員会

- ・実戦機会に恵まれない連珠愛好者向けに、詰連珠の出題や、全国通信戦を継続開催した。
- ・通信戦参加者数、詰連珠解答者数が年々減少傾向にあるので、解答者増を目的に初級問題を復活させた。

（13）特別表彰制度

- ・連珠の普及を通して、当法人の事業目的である知的水準の向上他・国際親善の成果を挙げ、わが国の文化の向上に寄与貢献された1名を表彰した。『連珠世界』誌、平成24年8月号2頁参照。